

しなののうた

ひらひらと蝶舞うごとく落ち葉する銀杏並木に立ちて華やぐ



杉田小百合

しなののうた

ころころと風に落ち葉の転がりて後追う子らの声空を突く

杉田小百合



しなののうた

柿の実に万の鳥が集えども立派な門に人影見えず

l.MI

杉田小百合

しなののうた

わが家にも柿の木ありて幼な日に競いて上る故郷遠し

杉田小百合



しなののうた

朝霧が深く立ち籠め見えざれば束の間われも無に浸るなり

l.MI

杉田小百合